

令和4年度 第2回 佐久市立近代美術館協議会 議事録

日時：令和4年10月27日（木）午後3時30分～午後5時

場所：佐久市立近代美術館 視聴覚室

出席者：委員9名（欠席1名）、事務局6名

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 教育振興基本計画（案）について

委 員：教育振興基本計画の骨子案は分量が多いので、通知と一緒に送ってほしかった。

教育長：美術館には事前に資料を送り、メールで意見をまとめるようにしてほしい。協議会を中身のあるものにするにはこのようにしなくてはならない。

委 員：近代美術館の目指す美術館像で対話型鑑賞について触れられているが、美術館の立場をはっきりと示す言葉を加えるべきでないか。作品を「見る、話す、聴く」をみんなで共有するのは良いことだが、それに加えて美術品の価値を教えていくのが必要なのではないか。なぜこの美術館にこの作家の作品があるのかを知ってもらうことが大切。

事務局：対話型鑑賞は1980年代にニューヨーク近代美術館で開発された鑑賞方法。専門性や知識のない中で、鑑賞者が実際にそこにある（展示されている）ものをどう見ていくかを重視する。

今年度展覧会を共催した長野県立美術館の教育普及担当者からも「こちらから知識を与えるということはない。そこにある作品の中から何を引き出せるか、子どもも大人も同等の立場で見ていくことが大事」という話があった。

今年度実施した対話型鑑賞イベントでは子どもが参加した回の方が盛り上がったという話があった。最初は具体的なモチーフを参加者が挙げていき、次第に様々な解釈ができあがっていく。この解釈は美術史的評価の影響を受けない。

委 員：対話型鑑賞を重んじる方向性は、従来美術館が大事にしてきた作品の価値を取り払うかのように思える。価値の重さを伝えながら子どもたちの考える力を養うべきだ。

委員：美術館のビジョンでありながら、美術館で目指すものが何だかわからない。本来美術館が伝える役割として期待される、美意識や美に対する気付きはどこへいった？ と思ってしまう。美術館としての一番のねらいを入れないと何を目指しているのか明確にならない。皆様に親しまれる美術館以外の二点は、美術館じゃなくても通用するような気がする。子どもたちの非認知能力を高めることは美術館の本当の狙いではないのでは。

委員：話を聞いていて、対話型鑑賞はある程度美術館に親しんでいる人の方が参加しやすい印象を受けた。都会ならば大きな美術館が身近にあって「美術館とはこういうもの」と分かっているから、対話型鑑賞が浸透しやすいのではないか。
近代美術館の課題はまず足を運んでもらうことなのに、いきなり対話型鑑賞と言われても困惑するだけ。市民が敬遠していて来館者数が伸び悩んでいるのなら、何らかのきっかけでまず来ていただくことが必要。せっかく対話型鑑賞をやるのならば、意義のあるものにする準備をしてもらいたい。

事務局：今後、当館でも対話型鑑賞の機会を増やしたい。館内に限らず学校の現場でもいい。30年ほど前、日本に入ってきた当時は等閑視されていたが、今は各地の美術館や学校へ導入されている。
これまで黙々と作品を鑑賞していた方が言葉を表に出していくこと自体が、資料価値を伝えるきっかけにもなっていく。

委員：対話型鑑賞が難しくて面白いのは、対話の先に答えがなかったり、評価の基準が示されていなかったりするところだと思う。参加者の違いや多様性を楽しんで発見していくのが狙い。自ら考える、切り開く、答えのない問題に自分でアクセスしていくというのが最も大事な部分。そのあとに作品のもつ歴史や評価の知識があれば、より深く美術の世界に触れられる。対話型鑑賞の自由さや多様さを活かす形でやってほしい。だんだん価値が出てくると思う。

委員：近代美術館のつくりは、現代の新しい美術館からすると前時代的。駒場公園全体の中で美術館を建てるにあたり、佐久創造館と一体型の構想があったのだろうという事務局の話はそのとおりだと思う。創造館はみずから参加する場、美術館は受け入れるだけの場というイメージがあるかもしれない。
創造館もまた古い建物。なんとかして存続させる運動をしなくてはならない。そのためには幼稚園の通園路にもなっている近代美術館に、子育て世代の方が子どもを連れてアプローチしてくれる環境を

わずかでも作らなければならない。ビジョンを述べるだけでなく具体的な働きをしてほしい。

静かに過ごせるオープンスペースのある公共施設には、自宅や学校から遠くても受験生が勉強しにきている。このような場を目指せばだんだん良い方向に向かっていくのではないか。

委員：教育振興基本計画に「生涯にわたり主体的・創造的に学び、生きる方を育む～」とあるが、創造館については長野県も佐久市もそれに反することをやっているとしたか思えない。市は「県の施設なのだから関係ない」という姿勢でいるし、県は県の中だけで完結している。

美術関係のグループは、今どうしたらいいかわからない状態。多くの公共施設は「汚すから」という理由で使えないし、作品搬入出などの車も止められない。活動に向けた施設でも、既存のグループがあるので入っていけない。創造館がなくなればここで解散になってしまう。

創造館の閉館は、市内の他の施設に人を呼び込むチャンスという見方もできる。本当にここをチャンスと見るなら、皆さんが親しんで活動できる美術館を作してほしい。自分たちは関係ないではなく、美術館の来館者数を増加させる方向で捉えてほしい。

委員：駒場公園内の施設は、創造館と噴水だけが県のもので聞いている。移管される際にどうして市のものにしなかったのだろうという疑問がある。

長野県展などの展覧会をやるにも他にできる場所がない。公民館からは常に講座や会議が入っているので難しいと言われた。県立武道館は市の施設と利用料が違いすぎる。

近代美術館の展示室は貸館にできないということなので、創造館は近代美術館の分館として市が手に入れてほしい。県展を佐久が担当する年度が近づいてきているが、上田のサントミュージゼにお願いしようと考えてもいる。美術館と直接関係ない話ではあるが、親しみある美術館にするには駒場公園もまとめて考えていく必要があるように思う。もっと市と県が歩み寄って方策を考えるようになってほしい。

事務局：ビジョンをもとに教育振興基本計画の具体的内容を考えているので、ここには協議会の皆さんの意見を入れていきたい。今回はお出しするタイミングが遅かったと思う。会議の後にご意見をお寄せいただいても良い。

委員：もう一回しっかり読んだ上で、メール等で連絡していいということか。

事務局：はい。よろしく申し上げます。

委員：記載されていることを実施する予算の見通しは立っているのか。例えばICTの環境整備にはかなりの費用がかかると思う。

事務局：ICTの環境整備は暗礁に乗り上げている。美術館単独で進めるのではなく佐久市全体で考えてかなければならないので、市の方針に従う。来年度に何らかのシステムを導入するのは難しい。

委員：世界中の美術作品の画像が自由に使える今こそ、佐久市内の小中学校で近代美術館の収蔵品が使われる状況にしていくのがとても重要なこと。市の担当がどう動いているかわからないが、ここの収蔵品を教育課程で利用できるようにする環境整備はぜひやってほしい。こうした活用が進めば、収蔵品の修復にも予算がつきやすくなるのではないか。

委員：以前にも、この会議の中で市内の学校の美術館利用の促進の話が出たと記憶している。それから1年ほど経っているが、今はどのような状況か。

事務局：開催中の「並木功展 一期一会」には佐久長聖中学校の全校生徒が来館し見学した。学校がバスを出してくれたため容易に実現した。私たちとしては学校見学を受け入れて、先生方や生徒たちが館内でのように動くのかよく見るようにしている。

これからは公立の学校にどのように美術館利用を提案できるか考えたい。佐久長聖中学校の見学でも、コロナ禍の状況によって予定が変更になるなど、担当の先生方が苦勞されている感じがした。一連の様子を見て次の提案をしていきたいと思っている。

委員：対話型鑑賞は、小学生を対象にすればスムーズに行くのではないかと思う。他の委員さんがおっしゃったように、美術館の研究にもとづいた、美術史的なことは対話型とは別立てにしたほうが良いと思う。

鑑賞の前段階で油井一二さんのことを教えて、コレクションについても特定の作品については教えて、お互い話し合ったりする場合は別の機会を設けて進めるのはどうか。

事務局：今日はそれぞれの視点から様々なご意見を言っていただき、重要なトピックについて協議ができていることに感謝している。

近代美術館としても、創造館を抜きにしてビジョンは成り立たないことを認識している。ビジョンを作成するきっかけとなった教育振興基本計画では、内容を教育の側にシフトしながら作ってきたので、指摘のとおり、美術館として重視すべきことが一部入っていない

い。意見に基づいて入れていきたい。

委員：教育振興基本計画のなかで、近代美術館の立ち位置は。

事務局：骨子案は6月ごろに発表されて、近代美術館は作成に関わっていない。

館のビジョンはこれまで作られてこなかったが、館内で話し合いながら作成している。最近では教育委員会からも館長に声がかかり会議に参加している。これも今までにはなかったことである。

教育長は従前の教育振興基本計画から基本理念以外の内容を大幅に変えようとしている。教育委員会内部にも様々な変化がある。

委員：これまでの協議会では来館者が来るようにするにはどうしたらいいかということ話し合ってきたので、ビジョンがいきなり出てきて、理念を固められるのには違和感がある。綺麗ごとという印象が否めない。わかりやすく共感がもてるものにしてもらえた方がよかった。現状ではお役所文書としか思えない。

事務局：これまでの状況についてはおっしゃる通りだと思う。

ビジョンを作成することで、観覧者を報告するところに一石を投げようとしている。博物館法が改正されるところがひとつきっかけだった。登録博物館として成り立っていくのに、どういった事業をどういうふう運営しているのか、内容にまで踏み込んでいく。学芸員の資質を向上するということがうたわれている。ICOMの方でも博物館の定義の更新が行われた。進化していく途中の段階で。これまでの美術館像では成り立たなくなっていく。

人を呼ばばいいということでやってきた展覧会もあるが、まったく研究成果をもとにしていないような、イベント的な展覧会ももしかしたらあったのかもしれない。美術館がやる展覧会はそれでいいのか。美術館は展示だけがすべてではなく、研究機関でもある。教育振興基本計画のフォーマットはお役所仕事と捉えられても仕方のないものだが、美術館はこれから変わっていかなければならない。

委員：そうだとすると、協議会の人にどういうことを出してもらいたいのかわからない。美術館の職員が一生懸命やっていることに対しては何も言えない。もっと協議会で話したいことを明確にしてもらいたい。

委員：美術館の会議に出席しはじめた当初は、官僚的で当たり障りのない感じを受けた。所定のことを消化していくような感じがあった。美術館を変えていくような話が出る方向性は間違っていない。何年前よりもマスコミ関係の話題として見るようになったし、広告など

も目につくようになった。

東京藝術大学美術館のような、1階が食堂で、他の階に展示室のある美術館は、同じ建物の中に学生などが集まる異次元の世界があるのが魅力的。そのような環境を目指してもらいたい。

委員：校長会で教育振興基本計画を読んだ。この場に座って改めて読んでみると新鮮。学校教育に携わる者だけが作っていくものだと思っていた。生涯にわたってというところに繋がっていた。美術のすばらしさに触れていく年代になっていく。人生の後半に興味を持っている方もいると思う。

校長会のときには気づかなかったが、子どもたちの心の醸成や多様な学びの推進に美術館が関わっていることがわかった。学校にいけない子どもたちの居場所にしてほしいと思ったが、多様な学びの場づくりとしたほうがよいのだと思った。大人の方も一緒に学ぶ場。美術館でどんな学びができるかということと一緒に考えていきたい。

委員：ここ数年はずっと暖簾に腕押し的なところがあった。例えば、観覧料を無料にしてみても、次はどうするんですか、というところで話が変わるようなことが多かったと感じる。教育長の交代やコロナ禍などがあったが、結果的に変化のための良い要素が重なったのではないかと。今まで話し合ってきた内容が蓄積されている。それが上手くつながって、上手くいく方法に向かうのではないかと思う。この美術館を良くする方向に向けて、一步前進できる機会なんじゃないかと思う。頑張ってもらいたい。

委員全員に共通しているのは「美術館をよくしたい」という気持ちだと思う。

(2) 令和5年度事業(案)について

事務局：説明

意見なし

(3) その他(連絡事項)

事務局：18歳未満及び高校生以下観覧無料の試行について。今年度の展覧会は無料にしている。まだ大きな成果としては出ていない。

4 閉 会